

文化を継承し、

時代の担い手となる中学生

岩手県中学校文化連盟 事務局長 佐藤 浩之

岩手県中学校文化連盟が発足して今年で18年になります。中でも大きな事業が、今年で18回目となりました岩手県中学校総合文化祭の開催です。

県中文祭での

舞台・展示発表

毎年11月の下旬に開催されるこの大会は、県内12地区の代表校が合唱や太鼓などの集団演技、演劇や郷土芸能など多種多様な発表を繰り広げるほか、近年、県・東北を勝ち上がり、全国大会でも入賞を果たしている合唱部、吹奏楽部の演奏、わたしの主張や英語暗唱を発表し合います。展示発表では、県内各中学校から授業や部活動で制作した美術・技術家庭・書道作品のほか、



力作ぞろいの展示発表

新聞コンクール優秀作品、科学研究発表作品などを展示しています。

想いのこもった発表

ステージ部門は、学校や地域の伝統文化、日々の練習で作ったものを発表し、その頑張りや込める想いが表れるもので、どの生徒も集中して取り組む姿が素晴らしいものです。

発表後のインタビューからも、伝統や文化を受け継ぐとともに、次の世代につないでいく意思を感じ、感動することばかりです。

大会やコンクールでは仲間とのつながりを大切にしながら自分たちの目標や賞を目指してきますが、ここで発表されるものは、自分たちを支えてくれている仲間、地域の方々、伝統といったものへの感謝の想いと、どのような学校や地域をつかっていきたいか、周りの人にそして地域に元気を届けたいという想いを、発信している



元気いっぱい東水沢中の舞台発表

ようにも思われます。見に来ていただいた方に感謝を与え、人のつながりへの感謝や、生きる元気を感ずることが出来る文化祭です。

つながりを生む文化

現在県中文連に加盟している学校数は163校(全ての公立学校と、私立学校2校・特別支援学校3校)となり、少子化で学校の統廃合が進んで減少してきています。

学区が広がりが地域とのつながりが薄れてきがちですが、学校は地域の方々とのつながりを様々な学習場面で必要としています。また、子ども達は将来地域の担い手です。

地域の方々を支えられながら郷土芸能などに取り組むこ

とで地域とのつながりができ、部活動や合唱へ一緒に取り組む中で仲間とのつながりができます。また、発表することで他の人とのつながりも生まれます。文化は人のつながりを生み、そのつながりから支え合いや新たなものを創造する力が生まれてきます。

一人ひとりが自分のできる役割を持ち、一体となって一つのものを作り上げる感動を、文化を通して味わっていったら、子ども達の大きな成長につながると思います。文化にはそんな力があると感じています。

二度目の

全国中文祭岩手大会

令和3年8月19日〜20日に、本県で二度目の全国大会が開催されます。平成23年度、東日本大震災直後の8月に、全国の支援を受けながら、被災地の学校の発表も含め全国大会を岩手で開催しました。「いろいろなものは流されたけど、僕たちは生きている」と復興に向けて決意を表した大会で、その10年後、感謝と岩手の元気な姿を見せる大会となります。中学生が地域や学校を支え頑張っている姿を発

表できるよう準備を進めていくところです。また、全国各地の文化に触れ、頑張っている姿を共有するとともに、新しいものに触れ新たな創造をしていくことができ、機会でもあります。多くの方に見ていただき、感動を共有できれば幸いです。



第19回全国中文祭富山大会に出演した遠野東中の「青笹しし踊り」

プロフィール



佐藤 浩之
(さとう ひろゆき)
H24より県中文連郷土芸能専門委員長、H27より同事務局長を務める。盛岡市立下橋中学校勤務(教諭)54歳。